

院内看護研究会記録

2012年2月29日

全身麻酔下で手術を受ける患児へのプレパレーションを実施して

7-1病棟 増田真美¹ 野秋悦子¹
有馬奈保美¹ 飯塚志麻¹
山下遼¹ 望月亜紀子²

1：看護師 2：保育士

I. はじめに

当院での小児の手術前オリエンテーション（手術用クリティカルパス）は、保護者を中心に行われており、児本人へは医療者から十分な説明（プレパレーション）がなかった。

児にとって、病院は慣れない環境であり、状況も理解出来ない状態で入院することがあり、ただ漠然とした不安や恐怖を感じたまま手術に臨むことがあった。そこで、児が楽しみながら、退院までの流れが目で見えて分かることも用の説明用紙（図1）を作成し、プレパレーションを実施したので、結果について、報告する。

II. 実施方法

手術前オリエンテーション時に、児に好きなシールを1シート選んでもらい、入院日から退院時までシールを貼ってもらう。子ども用説明用紙に名前が書ける児は、自分で記入してもらう。母親へは、入院時、プレパレーションの目的、子ども用説明用紙の使用法を説明し、児と一緒にシール貼りを実施してもらう。

III. 結果・考察

対象となった児は、4歳～9歳（男児5名、女児3名）入院期間は、3～7日間であった。術式は、扁桃摘出術、鼓膜切開チュービング術であった。プレパレーションを実施し、児によって興味を示す度合いは異なったものの全ての患児に良い反応がみられた。児にとって入院生活は慣れない

環境であり、その中で治療や手術を受けることは、大きな不安や恐怖を抱え、ストレスを生じさせる恐れがある。このような状況の中で、シールを貼るというプレパレーションを実施することは、治療の場に遊びの要素が組み込まれ、児にとって一つの気分転換になると思われる。また、治療や手術について、入院から退院までの流れを知ることができ、見通しを持って過ごすことができるとも思われる。知識を得るということは、これから起こる漠然とした不安や想像のつかない痛みに対する不安をいくぶん軽減させ、シールを貼りたいという意欲から、治療や手術への積極的な取り組みが期待される。

また、看護師・保育士と一緒に行うことで、児にとって楽しい時間の共有から、相互のコミュニケーションが深まり、良い関係を築くことができると考える。良い人間関係は、治療への良い効果も期待できる。

入院している児にとって病院での環境は、家族と離れ一つの社会生活の場でもある。特に長期入院の児にとっては、病院の社会生活の中で人間形成がなされていく。良い環境を作り出すことは、今後の児の成長にも関与しているといえる。家族と離れ入院生活を送っている児は、面会時間での家人との関わりがとても重要といえる。家人と一緒にプレパレーションを行うことは家族との時間を増やし、皆で一緒に治療や手術に不安なく臨めるようになるのではないかと、児に対しては“皆がついている、一緒に頑張っている”という気持ち、意欲を持てるのではないかと考える。

以上より、プレパレーションは入院時より退院までを通して継続的に行うことが重要である。入

院時に児が興味を引き起こすような導入を、児一人一人の特性や発達段階を把握し、取り入れていく必要がある。そこには家族も一緒に主旨、目的を説明した上で参加が不可欠である。児に積極的に声を掛け、興味を持ち続けていられるような関わりをしていきたい。

V. おわりに

子ども用説明用紙に終わることなく、クリティカルパス化も考慮して再考していきたい。

今後もプレパレーション実施後の患児に与えた影響や、医療者側の反応についても調査研究し、改善していくことでより良い看護、医療を患児に提供できるよう日々研鑽に努めたい。

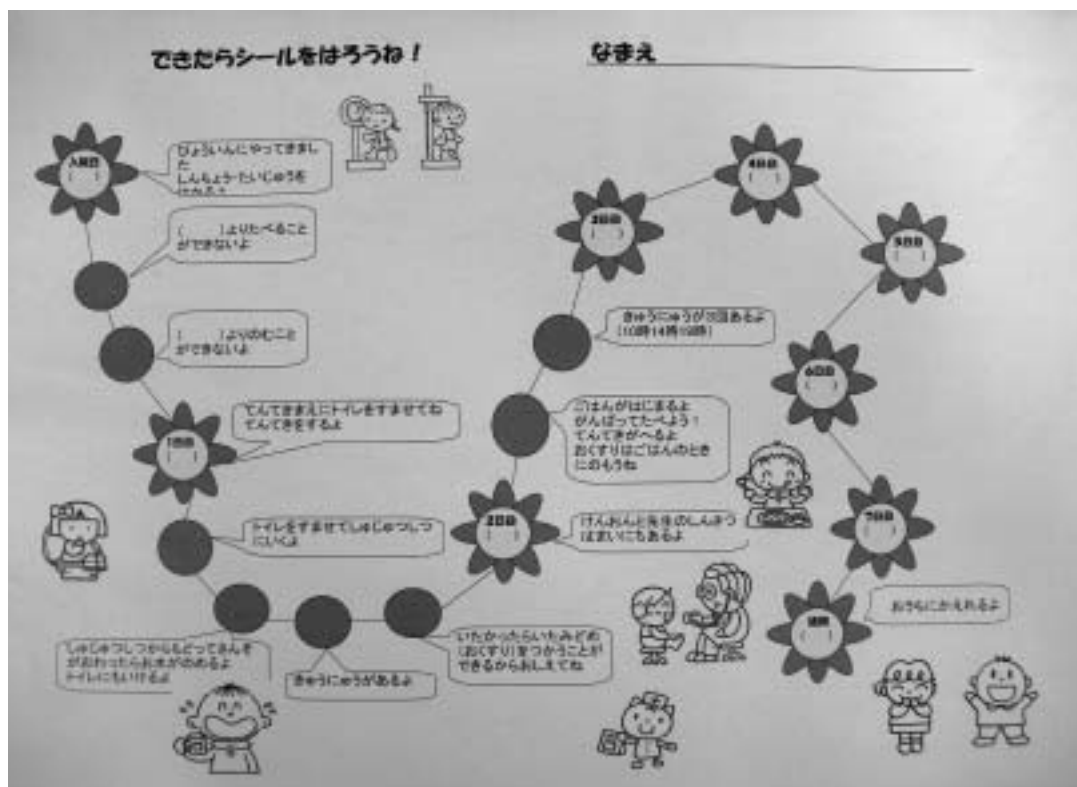


図1 入院から退院までの流れを示した子ども用説明用紙

当院における乳房切除術患者へのセルフケアマッサージ指導の現状報告

5-3病棟 高柳明奈 白鳥綾子

I. はじめに

乳癌で乳房切除術を行った患者は、リンパ管の圧迫・狭窄・閉塞などによってリンパ流の阻害と減少のためリンパ浮腫を生じやすくなる。近年、リンパ節生検を合わせて行ってくるものが多く、このことは浮腫を生じやすくさせる原因となっている。更にリンパ節郭清を行った患者は、浮腫を生じる確率が高くなる。リンパ浮腫はセルフケアマッサージで予防できるものであり、当院ではパンフレットを使用した説明のみを行っていた。し

かし現状として患者はリンパ浮腫を発生しているため、現在のセルフケアマッサージの指導の見直しを行った。

II. 目的

セルフケアマッサージ指導を効果的に行い、リンパ浮腫を予防するため。

III. 方法